

大相撲 行田場所の開催に伴い 谷川親方が市役所を訪問

10月17日、日本相撲協会巡業部の谷川親方(元関脇・北勝力関)が市役所を訪れました。

この日は、来年4月、行田市で20年ぶりに大相撲巡業が決定したことに伴い、「大相撲 行田場所」について説明がありました。谷川親方が「当日は力士をはじめ総勢約270人で参ります」と話すと、工藤市長は「とても楽しみです。大成功となるよう官民を挙げて全面的に協力したい」と述べました。

なお、開催概要などの詳細は、6ページをご覧ください。



乳がん撲滅を目指し、 忍城をピンク色にライトアップ

10月18日から31日まで、忍城がピンク色にライトアップされました。

乳がん撲滅に向けた運動の一環として行われているこの取り組みは、今年で3回目。訪れた人たちは普段と雰囲気の異なる忍城を眺めながら、この病気への理解を深め、早期発見の大切さを感じているようでした。



ふれあいを通じて 福祉への理解を深める

10月20日、産業文化会館南側芝生広場で第23回行田市ふれあい福祉健康まつりが開催されました。

これは、福祉に対する理解と関心を深め、健康保持、増進を図ることに目的に毎年実施されているもの。福祉・ボランティア団体らによるPRや作品展示、保健団体による健康啓発などの他、ステージでは歌や演奏、ダンスなどの発表が行われました。「こころ音楽隊と濱中由美子」の皆さんが、会場いっぱいに響き渡る元気な歌声を披露すると、来場者からは温かい拍手が送られました。



友好都市締結20周年を記念した 観光物産展で市をPR

9月30日、福島県白河市の白河市総合運動公園で、友好都市締結20周年記念「観光物産展」が開催されました。

友好都市の皆さんに本市をPRしようと、パンフレットなどの配布やTBSテレビ日曜劇場「陸王」で実際に使用した小道具展示などを行った他、NPO法人行田観光物産会による物産販売も行われました。会場は、悪天候にもかかわらず多くの来場者でにぎわい、互いに友好都市としての交流を深めました。



子供たちのすてきな笑顔があふれる

10月14日、水城公園市民広場で第29回浮き城のまち行田こどもまつりが開催されました。

当日は、バルーンアートやぶんぶんゴマ作りの他、世界の国々をテーマにしたゲームやクイズなど、9つのブースが出展。スタンプラリーも実施され、子供たちは台紙を手に楽しそうに巡っていました。

普段の生活では味わうことができない遊びが体験でき、会場内は子供たちのすてきな笑顔であふれていました。



味わえるアートを 丁寧に刈り取る

10月13日、6月の田植え参加者のうち、親子連れを中心に約350人が集まり「世界最大の田んぼアート」の稲刈り体験が行われました。参加者は背景部分に植えられた「彩のかがやき」を丁寧に刈り取り、前日の雨でぬかるんだ田んぼに足を取られないよう気を付けながら、コンバインまで大事に運んでいました。

田んぼアートは11月14日まで立体的なアートとして見ることができ、この日収穫された稲は精米され、田植え・稲刈り参加者に配られます。



大声援を受けて新記録を目指す

10月16日、雨で順延となっていた第64回行田市小学校連合運動会が総合公園第一自由広場で開催され、市内の小学校から6年生が参加しました。

たくさんの保護者も応援に駆け付け、大声援の中、各校の代表選手が1,000メートル走やボール投げなど7種類の種目で新記録を目指しました。60メートルハードル走では選手たちが日頃の練習の成果を発揮し、テンポよくハードルを跳び越えゴールを駆け抜けていました。



友好都市3市のランナー45人が 絆を深めながら奥州路を駆ける

9月23日、夜明け前の朝5時、忍城址東門前から桑名市・行田市・白河市の友好都市3市の市民ランナーが早朝の静けさの中走り出しました。

これは友好都市締結20周年を記念したリレーマラソンで前日の22日に東京・日本橋を出発し、3日間で236.5キロメートルを走破し、ゴールの白河小峰城を目指すもの。応援に駆け付けた工藤市長に見送られたランナーは互いにペースを合わせて3市の絆を深めながら奥州路を駆け抜け、予定していた24日に無事ゴールしました。

